

沖縄ツアー報告

八木巖

不戦ネットからよびかけて「沖縄ツアー」をおこないました。新基地建設を急ピッチですすめる辺野古、そのため砂利運搬を奥港や本部港からの海路を併用してまで進めている。名護市長選もひかえ、まさに正念場。

今回沖縄へはしょっちゅう行っている人、久しぶりの人、初めての人含めて7名で行ってきました。



行動(メモ)

先発隊は11月29日(水)、宜野湾の佐喜真美術館に行き「原爆の図」を見、屋上から普天間飛行場をみました。不思議とこの日は静かでした、飛行場周辺を赤土を積んで走るダンプカーが目につきました。それから道の駅「嘉手納」へ、ここもどういふわけか「静か」でした。(後からわかったのですが、事故があったそうです)

次の日は朝、6時ごろに辺野古のゲート前に行き、スタンディング。8時ごろからゲート前で集会・座り込みをおこないました。しかし、「今日は搬入なし」との情報が入り、テント前へ移動し集会。「オール沖縄会議」がドイツに本部のある、国際平和団体「国際平和ビューロー」からショーン・マクブライド平和賞を受け、授賞式に参加した安次富浩さんが報告し、ジュゴン裁判を行っているアメリカからの代表のあいさつがありました。前日、海上で抗議をおこなっていた船長が中城海上保安部に拘束されているというので、夕方から抗議・釈放要求にいき



ました。船長を元気づけるために「六甲おろし」を歌いました！ 夜、後発隊と合流。

次の12月1日(金)は7時過ぎにゲート前へ、8時より座り込み。排除されたが、搬入車への抗議を続ける。搬入車両200台。その後集会。愛知からは山本さんが報告しました。午後からは安部のオスプレイ墜落現場、CH53ヘリ墜落炎上した牧草地に行ってみました。現地で奥間さんに会い高江へ。N1テントでお話を聞きました。



上左:ゲートまで座り込みを暴力的に排除する機動隊
上右:石材を満載したトラックが砂塵をまき散らしながらゲートに入っていく。下左:CH53ヘリが墜落した牧草地の現場。ブルーシートが痛々しい。下右:高江のテントで奥間さんの説明を聞く。

12月2日(土)、この日は大勢の人が集まり、おおきな集会となりました。山城博治さんもあいさつ。搬入車両はありませんでした。私たちはグラスポートで大浦湾のアオサンゴなどを見ました。



左:グラスポートから見た巨大なアオサンゴ。この日は、海がとてもきれいで実物ももっときれいに見えた。左:辺野古の浜から見える、K1護岸の工事現場。美しい辺野古の海に石材を投下する無残な音が聞こえる。

12月3日(日)は伊江島へわたり、「ヌチドウタカラの家」に立ち寄り、伊江島補助飛行場を見に行きました。



名古屋に帰る。
(けっこうなスケジュールになりました。)

私は今回の沖縄行きで初めて伊江島に行きました。沖縄の平和運動の象徴とも言える阿波根昌鴻さんのゆかりのヌチドウタカラの家にも行きました。伊江島は本部港からフェリーで30分ほどの離島でもきれいな島でした。伊江島は今も島の35%が米軍基地。パラシュート降下訓練が日常におこなわれており、オスプレイの不時着などもありました。現在、オスプレイやF35Bの訓練のため、補助飛行場の着陸帯建設工事がすすめられている。ゲート近くに行きましたが、工事の様子は見るできませんでした。

日曜日のせいなのか伊江島基地周辺のようすは静かでした。辺野古、高江それに伊江島。沖縄本島の中北部は連動して基地強化がすすめられています。月並みですが、ヤンバルの森、海、伊江島、みんなすてきなところですよ。この自然を壊すことは許されません！

あと一番印象に残ったことは、辺野古ゲート前でスタンディングしているときに、となりにみえた男性に「今日は(12月2日)大きな集会在り予定されていますけれど、どれぐらいの人が集まれますかねえ。」と尋ねたところ、「さあどうだかねえ。みんな疲れているからねえ。私も定年後は畑をやってゆっくり過ごす予定だったのが、そうもいなくなりました。」と話されたことです。強く印象に残ったというわけでもないですが、何か共感できました。そりゃ毎日座り込んで、「排除」されるようなことが続けば、気分は滅入るわなと思いました。しかし、その日の集会所も大勢の参加があり、歌を歌い、報告があり、疲れた感じは一切ありませんでしたが。

団体ツアーの目玉はいつでも夜の交流会です。若い時ほどの体力はありませんが、不戦ネットは沖縄にくるたびによく「討論」した記憶があります。今回もそうした「議論」をしました。不戦ネットの今後にいい刺激になりました。

でもかつてと状況がまったく違うところが悲しいところですよ。かつては「沖縄の心」が言われ、運動の下地には「沖縄マニア」の人たちの存在があり、多様な沖縄の心のなかに、民謡や三線があり、「琉球独立論」もあり、若かった自分には新鮮でした。今、悲観的になっているわけではないのですが、問題がもっとむき出しになっています。「植民地支配」に対抗するには機動隊をとめなければならないし、資材搬入はとめなければならない。独立にはもっと多くの課題があります。政治的になっています。そんなことを考えさせられました。
みなさんごろうさまでした。



名護市長選の応援に行ってきました。

2月4日に投票が行われる、名護市長選に立候補をしている稲嶺進さんの選挙応援に行ってきました。今回の選挙は、前回自主投票だった公明党が相手方の支援に回り、大変厳しい選挙戦になっているそうです。後援会事務所は、ひっきりなしに人が出入りし、熱気が感じられました。地元の方は、この選挙を「官邸と名護市民の闘い」と位置付けていました。自民党は、菅官房長官をはじめ国会議員を投入して、一地方選挙とは思えないほど力を入れています。たった2日間でしたが、ポスティングや車での街宣などなど、地元の皆さんの意気込みに励まされて活動をしてきました。このニュースが届くときには結果が出ています。名護市長の権限をフルに使って、新基地建設阻止を掲げる、市長の誕生をみんなで喜びたいものです。(山本)